

令和6年度10月入学

令和7年度4月入学

福井大学大学院工学研究科
博士後期課程
学生募集要項

(社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜を含む)

令和6年5月



格致によりて 人と社会の未来を拓く

国立大学法人

福井大学

UNIVERSITY OF FUKUI

| 日 程 概 要 | | | |
|----------------|----------------------|----------------------|---------------------------|
| | 令和6年度10月入学 | 令和7年度4月入学 | |
| | | 第1次募集 | 第2次募集 ※ |
| 出願資格事前審査書類提出期限 | 令和6年7月11日(木) | | 令和7年1月6日(月) |
| 出 願 期 間 | 令和6年7月26日(金)～8月1日(木) | | 令和7年1月28日(火)～ 1月31日(金) |
| 選 抜 期 日 | 令和6年8月23日(金) | | 令和7年2月14日(金) |
| 合 格 発 表 | 令和6年9月11日(水) | | 令和7年3月5日(水) |
| 入学手続書類の送付 | 令和6年9月11日(水) | 令和6年10月上旬 | 令和7年3月5日(水) |
| 入 学 手 続 期 間 | 令和6年9月13日(金)～19日(木) | 令和6年10月21日(月)～24日(木) | 令和7年3月7日(金)～13日(木) |

※本学生募集要項は第1次募集と第2次募集の募集要項を兼ねており、出願書類は共通となっています。
 なお、第2次募集は第1次募集の定員充足状況により実施しない場合があります。第2次募集を実施しない場合については、令和6年12月上旬に本学ホームページでお知らせしますので必ず確認してください。

目 次

- I. アドミッション・ポリシー・・1
- II. 共通事項
 - 1. 募集人員・・3
 - 2. 出願期間・・3
 - 3. 障がいのある入学志願者の事前相談・・3
 - 4. 合格者発表・・4
 - 5. 入学手続等・・4
 - 6. 生活支援制度・・5
 - 7. 長期履修学生制度・・5
 - 8. 課程の修了及び学位の授与・・5
 - 9. 安全保障輸出管理について・・5
 - 10. 個人情報の利用・・5
 - 11. 受験上の留意事項・・6
 - 12. 検定料振込の流れ・・6
- III. 一般選抜
 - 1. 出願資格・・8
 - 2. 出願手続・・9
 - 3. 選抜方法等・・11
- IV. 社会人特別選抜
 - 1. 社会人特別選抜の概要・・12
 - 2. 出願資格・・12
 - 3. 出願手続・・13
 - 4. 選抜方法等・・15
- V. 外国人留学生特別選抜
 - 1. 出願資格・・16
 - 2. 出願手続・・17
 - 3. 選抜方法等・・18
- VI. 工学研究科博士後期課程案内・・20
- VII. 学生募集要項等の請求方法・・26

- 本研究科所定用紙（綴じ込み）
- 入学志願票
 - 写真票・受験票
 - 修士学位論文要旨
 - 研究業績調書（その1・その2）
 - 研究計画書
 - 推薦書（社会人特別選抜用）
 - 受験承諾書（社会人特別選抜用）
 - 在留資格に係る承諾書
 - 出願資格審査調書
 - 封筒（受験票等送付用）
 - あて名票・入学願書受付票

<注意>

- 本入試に関するすべての事項は、志願者本人がこの学生募集要項を熟読することによって、必ず本人の責任で確認してください。
- 受験者に不利益を与えない範囲での変更を行う場合があります。その場合は、本学ホームページの「受験生の方へ」内でお知らせします。
 [ホームページ <https://www.u-fukui.ac.jp/>]
- 電話での照会は、祝日及び年末年始を除く、月～金曜日の9：00～17：00に、この学生募集要項を参照の上、必ず志願者本人が行ってください。

I. アドミッション・ポリシー

(1) 養成する人材像

工学研究科では、確かな専門知識と高い倫理観を有し、自然や環境と調和した人間社会の豊かな発展に貢献できる工学系人材を養成します。特に、博士後期課程総合創成工学専攻では、高度な専門的知識・能力や研究開発能力に加え、工学の広い分野で活躍できる総合力と資質を有する高度専門技術者や研究者等を養成します。

各分野において養成する人材像は以下の通りです。

・物理工学分野

物質が関与する様々な物理現象の理論的、実験的研究を基盤とした教育により、現代科学技術の基礎をしっかりと身に付け、将来、企業や大学、国公立の研究機関など様々な分野で物理的基礎とその工学的応用をつなぐ橋渡しとしての役割を積極的に果たすとともに、高度な技術革新にも柔軟に対応できる創造性豊かな高度専門技術者や研究者等を養成します。

・分子工学分野

無機、有機、高分子など広範な分野において、物質の構造とその機能性の関係を分子レベルで明らかにし、様々な高機能性材料を設計・合成する独創的な研究を推進するとともに、これに必要な優れた研究・開発能力をもつ豊かな創造性を備えた高度専門技術者や研究者等を養成します。

・生物応用化学分野

自然界に存在する多様な物質や生物が示す諸現象の原子分子レベルでの解明や、新規で高機能性を有する材料や生体触媒の研究開発等を通して実践的教育により、最新で高度な専門知識をもつ、世界的水準で先端研究ができる創造性豊かな高度専門技術者や研究者等を養成します。

・機械・システム工学分野

安全・安心な社会を支える機械・システムの創造を機械工学とロボティクスを融合したアプローチで研究し、実践的な教育を通して国際的に通用する高度な専門的知識・能力を身に付けた専門技術者及び創造性豊かな研究・開発能力を備えた高度専門技術者や研究者等を養成します。

・知識情報システム分野

知識科学、知能システム、情報工学、情報システムなどに関する教育研究を通じて人類の幸福と発展に寄与することを願い、崇高な倫理観、高度な専門知識、そして創造性豊かな優れた研究・開発能力をもつ高度専門技術者や研究者等を養成します。

・電子システム分野

電子材料、光エレクトロニクス、半導体デバイス、エネルギー変換・伝送システム、制御システム、情報通信システム、システム工学等の専門教育ならびに研究開発を通して、リーダーシップを発揮でき、創造性豊かな研究開発能力と国際水準の専門知識を有する高度専門技術者や研究者等を養成します。

・建築都市システム分野

建築から都市、さらに広い地域にわたる社会基盤、環境を自然科学的および社会科学的方法によって理解し、設計手法によって総合するためのシステムを統合的に教育研究することを通して、創造性豊かな研究・開発能力を有し高い倫理観をもって社会の発展に寄与できる高度専門技術者や研究者等を養成します。

・繊維先端工学分野

高性能・高機能繊維材料の創成を基盤とした総合的な教育・研究により、生活の豊かさを追求する科学に情熱を傾け、社会の変動に対応できる実践力および国際的倫理観を有し、創造性豊かな研究・開発能力をもつ高度専門技術者や研究者等を養成します。

・原子力・エネルギー安全工学分野

原子力およびエネルギーに関する問題に対して安全・共生という観点から学際的・学術的にアプローチし、さまざまな学問分野を基盤とする総合的で実践的な教育を通して、創造性豊かな研究を高

い倫理観を持ちながら自立的に遂行できる高度専門技術者や研究者等を養成します。

(2) 求める学生像

(2-1) 能力, 意欲等

工学研究科博士後期課程では、養成する人材像を踏まえ、以下のような入学者を求めます。

1. 専門分野の高度な研究に主体的に取り組みたい人
2. 未来社会を支える科学技術の創造と開発に意欲のある人
3. 人間社会の持続的発展に寄与する研究開発をグローバルな視点から進めたい人

(2-2) 入学までに学習・修得しておくことが期待される内容

志願者には、志望する研究分野の知識（大学院博士前期課程修了程度）とその活用方法、論理的思考力、英語の能力などを身に付けておくことを期待します。

(3) 入学者選抜の基本方針

多様な背景を持った学生を受入れるため、一般選抜、外国人留学生特別選抜、社会人特別選抜を実施します。それぞれの選抜においては、求める人材像を踏まえ、志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定します。

いずれの選抜方法においても、学力検査や資料等は同程度の重みで扱いますが、それらの中に評価結果の著しく低いものがある場合には、それが判定に大きく影響します。

一般選抜では、筆記試験（英語）、口述試験、書類審査により、能力・意欲・適性等を総合的に評価・判定します。口述試験は、志望する研究分野に関連する科目、修士論文、研究計画書等の内容について行います。

外国人留学生特別選抜は、国費外国人留学生又は私費外国人留学生として入学を希望する者で、成績優秀な者を対象とします。学力検査を免除し、口述試験と書類審査により、能力・意欲・適性・目的意識等を総合的に評価・判定します。口述試験は、修士論文、研究計画書等の内容及び外国語（英語、日本語のうちから母語を除く1か国語）について行います。

社会人特別選抜では、企業等に勤務している者で所属長からの推薦を受けた者を対象とします。口述試験と書類審査により、能力・意欲・適性等を総合的に評価・判定します。口述試験は、修士論文、研究業績調書、研究計画書等の内容について行います。

Ⅱ. 共 通 事 項

1. 募集人員

【令和6年度10月入学】

| 専攻名 | 募集人員 |
|----------|------|
| 総合創成工学専攻 | 若干名 |

【令和7年度4月入学】

| 専攻名 | 募集人員 |
|----------|------|
| 総合創成工学専攻 | 22名 |

※募集人員には、社会人特別選抜・外国人留学生特別選抜の若干名を含みます。

※4月入学における第1次募集の結果によっては、第2次募集を行わない場合があります。

なお、第2次募集を実施しない場合については、令和6年12月上旬に本学ホームページでお知らせしますので必ず確認してください。

2. 出願期間

| 令和6年度10月入学 入学試験 令和7年度4月入学 第1次入学試験 | 令和7年度4月入学 第2次入学試験 |
|--------------------------------------|-----------------------|
| 令和6年7月26日(金)～8月1日(木) | 令和7年1月28日(火)～1月31日(金) |

- (1) 郵送の場合は簡易書留速達郵便とし、封筒の表面に「工学研究科博士後期課程入学願書在中」と朱書の上、**出願期間最終日の16時まで**に必ず到着するよう十分配慮し送付してください。ただし、期間後に到着した出願書類等のうち、出願期間最終日の2日以前の発信局日付印のある簡易書留速達郵便に限り受理します。
- (2) 持参の場合は、9時から17時(最終日は16時)に本学入試課へ提出してください。ただし、検定料の納入は必ず所定の手続により行ってください。
- (3) 出願期間終了後に受験票及び試験室案内を送付します。選抜期日2日前までに受験票が到着しないときは、本学入試課に問い合わせてください。
- (4) **本学大学院修士課程又は博士前期課程から引き続き本学大学院博士後期課程に進学する方は、検定料は不要です。**

3. 障がいのある入学志願者の事前相談

本研究科入学志願者で、病気・負傷や障がい等のために、受験上及び修学上の配慮を希望する者は、以下のとおり本学入試課(電話 0776-27-9927)に出願前申請を行ってください。

また期限後にやむを得ない事情等により申請が必要になった場合には、速やかに電話等により相談ください。

1. 出願前申請の期限

出願期間開始14日前まで

2. 事前相談の申請方法等

本学ホームページ(<https://www.u-fukui.ac.jp/>)「トップページ」→「受験生の方へ」→「入試情報・募集要項」内の「障がいのある入学志願者等の事前相談」から確認してください。

4. 合格者発表

| | |
|--------------------------------------|-------------------|
| 令和6年度10月入学 入学試験 令和7年度4月入学 第1次入学試験 | 令和7年度4月入学 第2次入学試験 |
| 令和6年9月11日(水) 10時 | 令和7年3月5日(水)10時 |

本学ホームページ (<https://www.u-fukui.ac.jp/>) の「受験生の方へ」内に合格者受験番号を発表するとともに、合格者あてに合格通知書を送付します。なお、電話による照会には一切応じません。

5. 入学手続等

令和6年度10月入学合格者、令和7年度4月入学第2次募集合格者には合格通知書とともに、また、令和7年度4月入学第1次募集合格者には令和6年10月上旬に、それぞれ「入学手続要項」等を送付するので、その内容をよく確認して手続を行ってください。

なお、入学手続期間内に所定の入学手続を完了しなかった者は、本学への入学を辞退したものと取り扱います。

(1) 入学手続期間・方法

| | | |
|---------------------|----------------------|----------------------|
| 令和6年度10月入学 入学試験 | 令和7年度4月入学 第1次入学試験 | 令和7年度4月入学 第2次入学試験 |
| 令和6年9月13日(金)～19日(木) | 令和6年10月21日(月)～24日(木) | 令和7年3月7日(金)～13日(木) |

入学手続は、郵送又は持参によるものとします。

- ① 郵送の場合は、入学手続書類等を本研究科所定の封筒に同封のうえ、簡易書留速達郵便で**入学手続期間最終日の16時まで**に必ず到着するよう送付してください。入学手続期間後に到着したものは、いかなる理由があっても一切受理しないので郵便事情を考えて早めに送付してください。
- ② 持参の場合は、入学手続期間の9時～17時(最終日は16時)(土・日・祝を除く)に本学入試課へ提出してください。ただし、検定料の納入は必ず所定の手続により行ってください。
提出先 〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

(2) 入学手続時に要する経費

- ① 入学料 282,000円(予定額)
ただし、本学研究科博士前期課程又は修士課程を修了し、引続き本課程に進学する者は納入不要です。
- ② 授業料 前期分 267,900円(年額535,800円)(予定額)
授業料については、入学手続時に入学料と併せて前期分又は前・後期分を一括して納入することもできます。(10月入学については後期分のみ)入学時及び在学中に入学料・授業料改定が行われた場合には、改定時から改定後の額が適用されます。入学料・授業料の納入方法は、合格者に送付する「入学手続要項」で通知します。
- ③ 傷害保険及び賠償責任保険
教育研究活動中の事故を補償するために、入学時に全員が何らかの傷害保険及び賠償責任保険に加入することを原則としています。
本学では、学生教育研究災害傷害保険(通学特約付)及び学研災付帯賠償責任保険の取り扱いがありますが、その他大学生協等で同等の傷害保険及び賠償責任保険に加入しても構いません。

(3) 入学料免除・徴収猶予と授業料免除・徴収猶予

経済的理由等により、入学料・授業料の納入が困難な者には、入学料免除・徴収猶予、授業料免除・徴収猶予制度があります。希望者は、合格者に送付する「入学手続要項」の入学料免除・

徴収猶予、授業料免除に関する欄を熟読して、所定の期間に申請をしてください。

なお、上記の経済的理由によるものの他に、現職教員、企業等に勤務している社会人にあつては、大学院入学時の成績が優秀な者に対して、入学後1年間の授業料を半額免除する制度があります。希望者は、所定の期間に申請をしてください。

奨学金等、その他の支援制度については、「入学手続要項」や大学ホームページにてご確認ください。

6. 生活支援制度

入学者のうち、1学年20名程度に対し、入学料・授業料相当額の生活支援を行っています。給付期間は3年を限度とし、毎年更新手続きを要します。ただし、入学料を必要としない者、また、上記5.(3)の対象者及び他の機関からの生活支援を受けられる者（貸与奨学生を除く）等については、支援額を調整することがあります。

希望者は、合格者に送付する「入学手続要項」の工学研究科博士後期課程学生への生活支援制度に関する欄を熟読して、入学手続前に所定の申請をしてください。

7. 長期履修学生制度

本研究科に入学しようとする者で、職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修することを希望する者は、合格者に送付する「入学手続要項」等送付時に同封する長期履修学生制度に関する通知を熟読し、入学手続前に所定の申請をしてください（外国人留学生は対象外）。

8. 課程の修了及び学位の授与

本研究科博士後期課程に3年以上在学し、主専門系8単位以上、副専門系8単位以上の合計16単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査及び最終試験に合格すると、博士（工学）の学位が授与されます。ただし、在学期間に関しては、特に優れた研究業績をあげた者については、本課程に1年以上在学すれば足りるものとします。

9. 安全保障輸出管理について

福井大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「福井大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生の受け入れに際し厳格な審査を実施しています。

規則事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、注意してください。

【参考】「福井大学安全保障輸出管理規程」

<https://www4.kitei-kanri.jp/unv/fukui/doc/extramural/rule/156.html>

10. 個人情報の利用

出願書類等に記載された個人情報（成績判定に関する情報を含む）は、①入学試験の実施、②入学手続、奨学金等の制度の運用、③入学者の受入準備（学籍管理、履修準備含む）、④入試の改善や志願動向等の調査、⑤入学後の履修指導や教務関係事務に使用する目的をもって福井大学が管理します。この目的の範囲内で福井大学の教職員が利用する場合及び本人の同意を得た場合のほかは、次に掲げる場合を除き、原則として、他の目的で利用又は福井大学の教職員以外に提供することはありません。

- 1) 捜査機関が捜査上必要とした場合等、行政機関等が法令に定める業務等を行うに必要な限度で利用することについて相当の理由があるときに、当該行政機関に個人情報を提供する場合
- 2) 提出された出願書類等の個人情報を電算処理する場合で、当該電算処理に係る業務を外部の

業者等に行わせるために当該業者に対する個人情報の提供が必要となった場合（なお、この場合には、当該業者に対して個人情報保護法の趣旨に則った保護管理の業務を契約により課すこととなります。）

- 3) 提出された出願書類等の個人情報を、当該本人の権利利益を不当に侵害する恐れがない範囲で、学術研究の目的のために提供する場合

【問い合わせ先】 福井大学学務部入試課

1.1. 受験上の留意事項

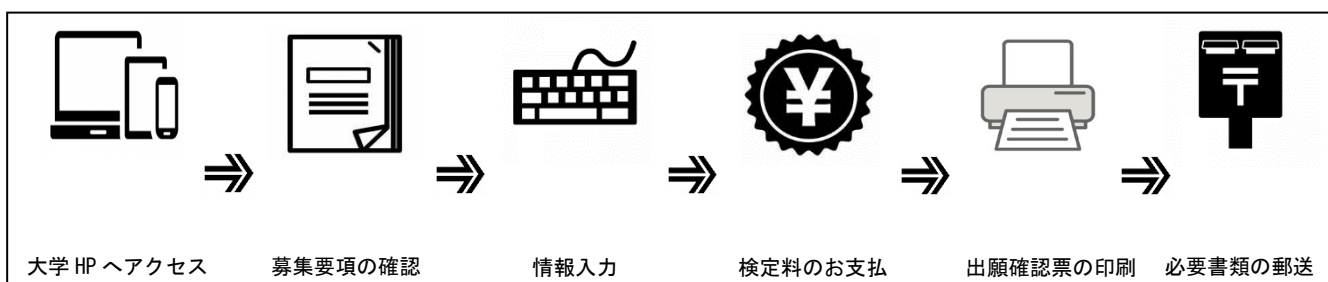
「感染症に関する注意事項について」

試験当日に、学校保健安全法施行規則で出席停止が定められている感染症（新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、麻しん等）に罹患し治癒していない場合は、他の受験者や監督者等への感染のおそれがありますので、受験は認められません。ただし、症状により学校医、その他の医師において感染のおそれがないと認められたときは、この限りではありません。万全の体調で試験に臨めるよう、感染予防対策を励行し、自己の健康管理を徹底するように注意してください。

なお、上記理由により受験できなかった場合、追試験は実施せず、検定料の返還も行いません。

※感染症の状況に応じて変更する場合があります。変更となった場合は、本学ホームページの「受験者の方へ」内でお知らせします。

1.2. 検定料振込の流れ



インターネットにより行います。振込完了には下記①～④のすべての手続きが必要です。

①インターネットサイトによる情報の入力

インターネットサイトへは、福井大学ホームページ (<https://www.u-fukui.ac.jp/>) からアクセスできます。

「受験生の方へ」→「入学者選抜インターネット出願」→「インターネット出願サイトURL」
→「出願手続き」→「その他の入試 ※検定料のお支払いのみ」

情報入力可能期間

| | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| 令和6年度10月入学 入学試験 令和7年度4月入学 第1次入学試験 | 令和7年度4月入学 第2次入学試験 |
| 令和6年7月19日(金) 9:00～8月1日(木)16:00 | 令和7年1月21日(火) 9:00～1月31日(金)16:00 |

*出願期間とは異なります。

②入学検定料の支払

入学検定料 30,000円

入学検定料の詳細は、下記の「検定料の支払方法」を参照してください。

③出願確認票の印刷

④出願確認票等の郵送

(注) インターネットでの情報入力及び入学検定料の支払を行っただけでは出願手続完了とはなりません。出願期間内に、出願書類を郵送(必着)することで完了となります。

「検定料の支払方法」

① 検定料 30,000円

検定料の他に、支払手数料(自己負担)が必要です。

② 支払期間

10月入学・4月入学(第1次募集)

令和6年7月19日(金)9:00～8月1日(木)

4月入学(第2次募集)

令和7年1月21日(火)9:00～1月31日(金)

*出願期間とは異なります。

ただし、出願書類等は、出願期間最終日16時までに提出であることに特に注意して早めに支払ってください。

③ 支払方法

コンビニエンスストア、銀行ATM(Pay-easyでの支払)、クレジットカード(VISA, MasterCard, JCB, AMERICAN EXPRESS, Diners Club)及びネットバンキングのいずれかで支払可能です。

④ 支払に際しての留意事項

ア. 銀行窓口での支払はできません。

イ. コンビニエンスストアに設置されている銀行ATMでの支払はできません。

ウ. クレジットカード及びネットバンキングの名義は、志願者と同一である必要はありません。

エ. 支払手数料は、入学志願者本人の負担となります。

⑤ 検定料の返還に関する留意事項

出願書類を受理した後は、次の場合を除き、いかなる理由があっても支払済の検定料は返還しません。

次の該当者は、速やかに本学入試課に問い合わせてください。

ア. 検定料を支払ったが本学に出願しなかった(出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった)場合

イ. 検定料を誤って二重に支払った場合

振込先口座が、日本国外の金融機関の場合、振込手数料等は入学志願者の負担となります。本学に振り込まれた金額から手数料等を控除して返還します。

Ⅲ. 一 般 選 抜

1. 出願資格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位若しくは専門職学位（学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (2) 外国において修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第一条第二項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、(4) の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第十六条の二に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年 9 月 1 日文部省告示第 118 号）
- (8) 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時までには 24 歳に達しているもの

※ 出願資格の(6)、(7)又は(8)によって出願する者は、出願期間前に出願資格審査が必要となるので、「出願資格審査調書」、「研究業績調書」（本研究科所定の用紙）に「修了証明書」（最終学校のもの）、「学部成績証明書」、「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」（(6)の場合、「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの）を添付し、以下の提出期限までに本学入試課へ提出してください。

出願資格審査書類の提出期限

| | |
|--|---------------------------------|
| 令和 6 年度 10 月入学 入学試験 令和 7 年度 4 月入学 第 1 次入学試験 | 令和 7 年度 4 月入学 第 2 次入学試験 |
| 令和 6 年 7 月 11 日(木) 16 時必着 | 令和 7 年 1 月 6 日(月) 16 時必着 |

なお、審査の結果は、出願期間開始日までに本人あてに通知します。

出願資格(7)に定める「文部科学大臣の指定した者」とは、次のすべての要件を満たす者です。

- ① 大学を卒業した後、又は外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学・研究所等において、2 年以上研究に従事した者であること。
- ② 著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

出願資格(8)に定める「本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時までには 24 歳に達しているもの」とは、次のすべての要件を満たす者です。

- ① 入学時までには、24 歳に達していること。
- ② 学校教育期間と教育若しくは研究及び科学技術関係分野等に就いていた期間を合わせて 18 年以上あり、修士の学位を有する者と同等以上の学力を有すること。
- ③ 著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

2. 出願手続

(1) 出願書類の提出先

〒910 - 8507 福井市文京3 - 9 - 1 福井大学学務部入試課

(2) 出願書類等

| 書 類 等 | 摘 要 |
|------------------------------|--|
| 入 学 志 願 票 | 本研究科所定の用紙に、必ず自書してください。 「入学区分」欄は、希望する入学時期を○で囲んでください（以下同じ）。 |
| 写 真 票 ・ 受 験 票 | 縦4 cm×横3 cmの写真（正面向き、無帽、上半身、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの）を各1枚貼付してください。 |
| 学 位 証 明 書 又は 修 了 証 明 書 | 出身大学（研究科）の修了証明書で、大学長又は研究科長等発行のもの。 修了見込みの者は修了見込証明書を提出してください。なお、 本研究科修了者及び修了見込者は提出不要 です。 外国の大学を卒業した場合は、学位証明書を提出してください。 |
| 大学院成績証明書 | 出身大学（研究科）の成績証明書で、大学長又は研究科長等発行のもの。 |
| 学部成績証明書 | 出身大学（学部）の成績証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。 |
| 修士学位論文要旨 | 本研究科所定の用紙に、1,800字以内で記入してください。 必要に応じて図表を組み入れても構いませんが、全体で2枚を超えないようにしてください。（図表内の文字は制限文字には数えません。） 所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 修了見込みの者については、修士学位論文の研究題目とその研究の進捗状況について要約したものとします。 なお、関連した論文の別刷又は学術講演、特許等がある場合は、そのコピーを添付 してください。 |
| 研 究 計 画 書 | 研究を希望するテーマあるいは分野について、その目的及び構想を、研究指導を希望する教員と相談の上、本研究科所定の用紙に、1,000字以内で記入してください。所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 |
| 出願確認票 (検定料振込の証明) | インターネットサイトにより手続を行います。 7ページ「Ⅱ. 12. 検定料振込の流れ」をご確認ください。 |
| 返 信 用 封 筒 (受験票等送付用) | 本研究科所定の封筒に、住所・氏名・郵便番号を明記し、244円分の切手を貼ってください。（令和6年10月より郵便料金が値上げの予定です。出願時に値上げしている場合は320円分の切手を貼ってください） |
| あ て 名 票 (合格・入学手続通知用) | 本研究科所定の用紙 合格通知及び入学手続書類の送付に使用するので、出願後受信場所が変更となった場合は、速やかに連絡してください。 |
| 入学願書受付票 (あて名票と同一用紙) | 本研究科所定の用紙 必要事項を正しく記入してください。 |

| | | |
|--|--|---|
| <p style="text-align: center;">該 当 者</p> | <p style="text-align: center;">TOEIC又は TOEFL のスコア</p> <p>※理工学分野， 機械・システム工 学分野，知識情報 システム分野，建 築都市システム 分野のみ</p> | <p>理工学分野，機械・システム工学分野，知識情報システム分野，建築都市システム分野のみ，英語の筆記試験の代わりに TOEIC 又は TOEFL のスコアのいずれかを利用し受験することが可能です。TOEIC 又は TOEFL のスコアのいずれかを利用し受験する方は，出願の際にスコアを提出する必要がありますので，下記の注意事項に留意の上，TOEIC 又は TOEFL を事前に受験してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出願時にはスコア（個人用公式認定証）のコピー提出が必要となります。 ・選抜試験日にスコアの原本確認を行います。 ・スコア（個人用公式認定証）は 2022 年 9 月 1 日以降発行のものに限ります。 ・提出しない場合は，英語の筆記試験を実施します。 ・有効なスコア（個人用公式認定証）は以下のみです。 TOEIC の場合：Official Score Certificate TOEFL の場合：Examinee Score Report 又は Official Score Report [TOEIC-IP（カレッジ TOEIC），TOEIC SW，TOEIC Bridge，TOEFL ITP のスコアは認めません。] ・TOEIC については，2024 年 4 月以降のスコアを提出する際は，出願時にスコアデータ（QR コードが表示されている）を印刷したものを提出してください。（2024 年 4 月以降は，デジタル公式認証となるため）この場合，当日の持参の必要はありません。 |
| <p style="text-align: center;">該 当 者</p> | <p style="text-align: center;">住民票</p> | <p>本邦在留の外国人は，市区町村長発行の住民票（本人に係るすべての事項を証明したもの）を提出してください（コピー不可）。海外住居者は，住民票の代わりにパスポートのコピー（姓名，国籍及び在留資格が記載されたページ）を提出してください。なお，在留資格が「留学」以外の者は，在留資格に係る承諾書を提出してください。</p> |

注 1：出願資格の（2）に該当する者のうち，志願者の国籍の教育制度が日本の教育制度と異なることにより，「大学院成績証明書」及び「学部成績証明書」が提出できない場合は，その代わりに出身大学（修士の学位に相当する学位を授与した大学）の「成績証明書」を提出してください。

2：出願資格の（6）（7）又は（8）に該当する者は，出願資格審査で既に「修了証明書」，「学部成績証明書」，「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」（（6）の場合，「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの）が提出されているので改めて提出する必要はありません。

（3）出願に当たっての留意事項

- ① **出願者は，出願前に，あらかじめ希望する指導教員の了承を得る必要があります。**
- ② 出願書類は黒のボールペン書き（消せるボールペンは使用不可）とし，かい書で正確に記入してください。
- ③ 提出する書類のうち証明印，サインのあるものは，コピーでの提出は認めません。
- ④ 受理した出願書類等は，どのような理由があっても返還しません。
- ⑤ 納入済の検定料は，次の場合を除き，どのような理由があっても返還しません。
 - 1）検定料を振込んだが，本研究科に出願しなかった場合
 - 2）検定料を誤って重複して振込んだ場合
 なお，返還方法については本学入試課に問い合わせてください。
- ⑥ 出願書類等に偽造，虚偽記載，剽窃等，その他試験の公平性を損なう恐れのある場合は，不正行為となり，出願を認められないことがあります。また，出願受理後でも出願の取り消しや，入学後でも入学許可を取り消すことがあります。なお，その場合，検定料及び入学料は返還しません。
- ⑦ **日本語又は英語以外で書かれた書類については，日本語の訳文を添付してください。**
 (Please attach Japanese translation to documents that are written in languages other

than Japanese or English.)

3. 選抜方法等

(1) 選抜方法

各分野で実施する、筆記試験（英語）、もしくは TOEIC 又は TOEFL のスコア、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。

(2) 口述試験の内容

口述試験は、志望する研究分野に関連する科目、修士論文、研究計画書等の内容について行います。生物応用化学分野では、パソコンの持ち込みを可とします。

(3) 選抜期日等

① 日 時

| 令和6年度10月入学 入学試験 令和7年度4月入学 第1次入学試験 | 令和7年度4月入学 第2次入学試験 |
|--------------------------------------|----------------------------------|
| 令和6年8月23日(金) 筆記試験（英語） 口述試験 | 令和7年2月14日(金) 筆記試験（英語） 口述試験 |

② 試験場 福井大学工学部 福井市文京3-9-1

試験室案内及び試験日時の詳細は、受験票送付時に同封するとともに、当日は、本学総合研究棟Ⅲ-1（工学系1号館1号棟）玄関前に掲示を行います。

(4) 受験上の留意事項

① 受験者は、**必ず受験票を携帯し、試験開始15分前までに各試験室等へ集合**してください。

② 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めず。

③ 本研究科が課す選抜試験を一部でも受験しなかった場合には、失格となります。

IV. 社会人特別選抜

1. 社会人特別選抜の概要

(1) 趣旨

「社会人特別選抜」とは、企業等に勤務している者を、所属長からの推薦に基づいて選抜する制度のことであり、推薦を行う企業等は、在職のままの修学について応諾することを前提としています。この制度は、社会に開かれた大学院教育の一環として、社会人に対して再教育の場を提供するとともに、大学と産業界との活発な交流により、新しい学問を「新しい技術」に展開・発展させることを目的として実施するものであり、大学院設置基準第 14 条の特例を適用した「昼夜開講制」による教育を行うこととしています。

(2) 教育方法の特例の概要

- ① 博士後期課程 3 年のうち、1 年目は課程修了に必要な単位の大部分を夜間、土曜日、日曜日及び集中の授業で修得し、2、3 年目は昼間、夜間、土曜日、日曜日のうち指導教員の指示時間に登学し、主として博士論文作成のための研究に専念することを原則としています。ただし、分野によっては、1 年目は昼間に登学して課程修了に必要な単位を修得し、2、3 年目は夜間及び土曜日、日曜日に登学して博士論文作成のための研究を行うこともあるので、出願前に必ず志望分野の分野主任に問い合わせてください。
- ② 入学に当たっては、指導教員の指導の下に 3 年間を見通した履修計画を提出してください。なお、勤務の都合から履修計画に変更が生じた場合は、その都度申し出て許可を得てください。
- ③ 企業等における研究も、その内容が博士論文にふさわしければ研究のテーマとして認め、また、勤務先の設備を利用した研究を認めることがあります。

2. 出願資格

各種の研究機関、教育機関又は企業等に勤務する技術者又は研究者で、入学後もその身分を有し、所属長からの推薦を受けた者で、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位若しくは専門職学位（学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (2) 外国において修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者及び入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第一条第二項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、(4) の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第十六条の二に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年 9 月 1 日文部省告示第 118 号）
- (8) 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時まで 24 歳に達しているもの

※ 出願資格の(6), (7) 又は (8) によって出願する者は, 出願期間前に出願資格審査が必要となるので, 「出願資格審査調書」, 「研究業績調書」(本研究科所定の用紙) に「修了証明書」(最終学校のもの), 「学部成績証明書」, 「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」((6)の場合, 「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの)を添付し, 以下の提出期限までに本学入試課へ提出してください。

出願資格審査書類の提出期限

| | |
|--------------------------------------|-------------------|
| 令和6年度10月入学 入学試験 令和7年度4月入学 第1次入学試験 | 令和7年度4月入学 第2次入学試験 |
| 令和6年7月11日(木) 16時必着 | 令和7年1月6日(月) 16時必着 |

なお, 審査の結果は, 出願期間開始日までに本人あてに通知します。

出願資格(7)に定める「文部科学大臣の指定した者」とは, 次のすべての要件を満たす者です。

- ① 大学を卒業した後, 又は外国において学校教育における16年の課程を修了した後, 若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後, 大学・研究所等において, 2年以上研究に従事した者であること。
- ② 著書, 学術論文, 学術講演, 学術報告, 特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

出願資格(8)に定める「本研究科において, 個別の出願資格審査により, 修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で, 入学時までに24歳に達しているもの」とは, 次のすべての要件を満たす者です。

- ① 入学時までに, 24歳に達していること。
- ② 学校教育期間と教育若しくは研究及び科学技術関係分野等に従事していた期間を合わせて18年以上あり, 修士の学位を有する者と同等以上の学力を有すること。
- ③ 著書, 学術論文, 学術講演, 学術報告, 特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

3. 出願手続

(1) 出願書類の提出先

〒910-8507 福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

(2) 出願書類等

| 書 類 等 | 摘 要 |
|------------------------------|---|
| 入 学 志 願 票 | 本研究科所定の用紙に, 必ず自書してください。 「入学区分」欄は, 希望する入学時期を○で囲んでください(以下同じ)。 |
| 写真票・受験票 | 縦4cm×横3cmの写真(正面向き, 無帽, 上半身, 無背景で出願前3か月以内に撮影したもの)を各1枚貼付してください。 |
| 学 位 証 明 書 又は 修 了 証 明 書 | 出身大学(研究科)の修了証明書で, 大学長又は研究科長等発行のもの。 修了見込みの者は修了見込証明書を提出してください。なお, 本研究科修了者及び修了見込者は提出不要 です。 外国の大学を卒業した場合は, 学位証明書を提出してください。 |
| 大学院成績証明書 | 出身大学(研究科)の成績証明書で, 大学長又は研究科長等発行のもの。 |
| 学部成績証明書 | 出身大学(学部)の成績証明書で, 大学長又は学部長等発行のもの。 |
| 修士学位論文要旨 | 本研究科所定の用紙に, 1,800字以内で記入してください。 必要に応じて図表を組み入れても構いませんが, 全体で2枚を超えないようにしてください。(図表内の文字は制限文字には数えません) 所定の用紙に準じて作成したり, 別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 修了見込みの者については, 修士学位論文の研究題目とその研究の進捗状況に |

| | |
|------------------------|--|
| | ついて要約したものとします。 なお、関連した論文の別刷又は学術講演、特許等がある場合は、そのコピーを添付してください。 |
| 研究計画書 | 研究を希望するテーマあるいは分野について、その目的及び構想を、研究指導を希望する教員と相談の上、本研究科所定の用紙に、1,000字以内で記入してください。所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 |
| 研究業績調書 (その1, その2) | 本研究科所定の用紙に、職務内容、著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許及び実用新案等社会における研究活動状況を示すものを記入してください。所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 なお、関連した論文の別刷又は写しを添付してください。 |
| 受験承諾書 | 本研究科所定の用紙により、勤務先の所属長又はこれに準ずる者が発行したものの。 |
| 出願確認票 (検定料振込の証明) | インターネットサイトにより手続を行います。 7ページ「Ⅱ. 12. 検定料振込の流れ」をご確認ください。 |
| 返信用封筒 (受験票等送付用) | 本研究科所定の封筒に、住所・氏名・郵便番号を明記し、244円分の切手を貼ってください。(令和6年10月より郵便料金が値上げの予定です。出願時に値上げしている場合は320円分の切手を貼ってください) |
| あて名票 (合格・入学手続通知用) | 本研究科所定の用紙 合格通知及び入学手続書類の送付に使用するので、出願後受信場所が変更となった場合は、速やかに連絡してください。 |
| 入学願書受付票 (あて名票と同一用紙) | 本研究科所定の用紙 必要事項を正しく記入してください。 |
| 推薦書 (任意提出書類) | 本研究科所定の用紙により、原則として出身大学等の指導教員又は勤務先の所属長が作成し、厳封したもの。 |
| 該当者 住民票 | 本邦在留の外国人は、市区町村長発行の住民票(本人に係るすべての事項を証明したもの)を提出してください(コピー不可)。海外住居者は、住民票の代わりにパスポートのコピー(姓名、国籍及び在留資格が記載されたページ)を提出してください。なお、在留資格が「留学」以外の者は、在留資格に係る承諾書を提出してください。 |

注1：出願資格の(2)に該当する者のうち、志願者の国籍の教育制度が日本の教育制度と異なることにより、「大学院成績証明書」及び「学部成績証明書」が提出できない場合は、その代わりに出身大学(修士の学位に相当する学位を授与した大学)の「成績証明書」を提出してください。

2：出願資格の(6)(7)又は(8)に該当する者は、出願資格審査で既に「修了証明書」、「学部成績証明書」、「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」((6)の場合、「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの)が提出されているので改めて提出する必要はありません。

(3) 出願に当たっての留意事項

- ① 出願者は、出願前に、あらかじめ希望する指導教員のと承を得る必要があります。
- ② 出願書類は黒のボールペン書き(消せるボールペンは使用不可)とし、かい書で正確に記入してください。
- ③ 提出する書類のうち証明印、サインのあるものは、コピーでの提出は認めません。
- ④ 受理した出願書類等は、どのような理由があっても返還しません。

- ⑤ 納入済の検定料は、次の場合を除き、どのような理由があっても返還しません。
- 1) 検定料を振込んだが、本研究科に出願しなかった場合
 - 2) 検定料を誤って重複して振込んだ場合
- なお、返還方法については学務部入試課にお問い合わせください。
- ⑥ 出願書類等に偽造、虚偽記載、剽窃等、その他試験の公平性を損なう恐れのある場合は、不正行為となり、出願を認められないことがあります。また、出願受理後でも出願の取り消しや、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。なお、その場合、検定料及び入学料は返還しません。
- ⑦ **日本語又は英語以外で書かれた書類については、日本語の訳文を添付してください。**
(Please attach Japanese translation to documents that are written in languages other than Japanese or English.)

4. 選抜方法等

- (1) 選抜方法
各分野で実施する、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。
- (2) 口述試験の内容
口述試験は、修士論文、研究業績調書、研究計画書等の内容について行います。
- (3) 選抜期日等

① 日 時

| | |
|--------------------------------------|-------------------|
| 令和6年度10月入学 入学試験 令和7年度4月入学 第1次入学試験 | 令和7年度4月入学 第2次入学試験 |
| 令和6年8月23日(金) | 令和7年2月14日(金) |

② 試験場 福井大学工学部 福井市文京3-9-1

試験室案内及び試験日時の詳細は、受験票送付時に同封するとともに、当日は、本学総合研究棟Ⅲ-1(工学系1号館1号棟)玄関前に掲示を行います。

(4) 受験上の留意事項

- ① 受験者は、**必ず受験票を携帯し、試験開始15分前までに各試験室等へ集合**してください。
- ② 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めず。
- ③ 本研究科が課す選抜試験を一部でも受験しなかった場合には、失格となります。

V. 外国人留学生特別選抜

日本国籍を有しない者（出願時に出入国管理及び難民認定法（昭和 26 年政令第 319 号）に規定する「留学」の在留資格を有する者又は入学時に「留学」を取得できる見込みの者）で、本研究科に入学を希望する成績優秀な者について、学力検査を免除した特別選抜を実施します。

なお、この特別選抜によらず、一般選抜で出願することもできます

1. 出願資格

日本の大学において教育を受ける目的をもって入国した外国人で、次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 修士の学位若しくは専門職学位（学位規則（昭和 28 年文部省令第 9 号）第 5 条の 2 に規定する専門職学位をいう。以下同じ。）を有する者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (2) 外国において修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位若しくは専門職学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (5) 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第一条第二項に規定する 1972 年 12 月 11 日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者又は入学希望月の前月末日までに授与される見込みの者
- (6) 外国の学校、(4) の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第十六条の二に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（平成元年 9 月 1 日文部省告示第 118 号）
- (8) 本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時までには 24 歳に達しているもの

※ 出願資格の(6)、(7)又は(8)によって出願する者は、出願期間前に出願資格審査が必要となるので、「出願資格審査調書」、「研究業績調書」（本研究科所定の用紙）に「修了証明書」（最終学校のもの）、「学部成績証明書」、「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」（(6)の場合、「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの）を添付し、以下の提出期限までに本学入試課へ提出してください。

出願資格審査書類の提出期限

| | |
|--|--------------------------|
| 令和 6 年度 10 月入学 入学試験 令和 7 年度 4 月入学 第 1 次入学試験 | 令和 7 年度 4 月入学 第 2 次入学試験 |
| 令和 6 年 7 月 11 日(木) 16 時必着 | 令和 7 年 1 月 6 日(月) 16 時必着 |

なお、審査の結果は、出願期間開始日までに本人あてに通知します。

出願資格(7)に定める「文部科学大臣の指定した者」とは、次のすべての要件を満たす者です。

- ① 大学を卒業した後、又は外国において学校教育における 16 年の課程を修了した後、若しくは外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 16 年の課程を修了した後、大学・研究所等において、2 年以上研究に従事した者であること。
- ② 著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

出願資格(8)に定める「本研究科において、個別の出願資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、入学時までには 24 歳に達しているもの」とは、次のすべての要件を満たす者です。

- ① 入学時まで、24歳に達していること。
- ② 学校教育期間と教育若しくは研究及び科学技術関係分野等に就いていた期間を合わせて18年以上あり、修士の学位を有する者と同等以上の学力を有すること。
- ③ 著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許などにおいて修士論文と同等以上の価値があると認められる研究業績を有する者であること。

2. 出願手続

(1) 出願書類の提出先

〒910 - 8507 福井市文京3 - 9 - 1 福井大学学務部入試課

(2) 出願書類等

| 書 類 等 | 摘 要 |
|------------------------|---|
| 入 学 志 願 票 | 本研究科所定の用紙に、必ず自書してください。 「入学区分」欄は、希望する入学時期を○で囲んでください（以下同じ）。 欄外にある「外国人留学生特別選抜指導希望教員確認欄」に指導教員の確認印をもらうこと。ただし、学外等遠方からの志願者で確認印がもらえない場合は、教員の承諾を得た日を記載すること。 |
| 写真票・受験票 | 縦4cm×横3cmの写真（正面向き、無帽、上半身、無背景で出願前3か月以内に撮影したもの）を各1枚貼付してください。 |
| 学位証明書 又は 修了証明書 | 出身大学（研究科）の修了証明書で、大学長又は研究科長等発行のもの。 修了見込みの者は修了見込証明書を提出してください。なお、 本研究科修了者及び修了見込者は提出不要 です。 外国の大学を卒業した場合は、学位証明書を提出してください。 |
| 大学院成績証明書 | 出身大学（研究科）の成績証明書で、大学長又は研究科長等発行のもの。 |
| 学部成績証明書 | 出身大学（学部）の成績証明書で、大学長又は学部長等発行のもの。 |
| 修士学位論文要旨 | 本研究科所定の用紙に、1,800字以内で記入してください。 必要に応じて図表を組み入れても構いませんが、全体で2枚を超えないようにしてください。（図表内の文字は制限文字には数えません。） 所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 修了見込みの者については、修士学位論文の研究題目とその研究の進捗状況について要約したものとします。 なお、 関連した論文の別刷又は学術講演、特許等がある場合は、そのコピーを添付 してください。 |
| 研究計画書 | 研究を希望するテーマあるいは分野について、その目的及び構想を、研究指導を希望する教員と相談の上、本研究科所定の用紙に、1,000字以内で記入してください。所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 |
| 出願確認票 (検定料振込の証明) | インターネットサイトにより手続を行います。 7ページ「Ⅱ. 12. 検定料振込の流れ」をご確認ください。 |
| 返信用封筒 (受験票等送付用) | 本研究科所定の封筒に、住所・氏名・郵便番号を明記し、244円分の切手を貼ってください。（令和6年10月より郵便料金が値上げの予定です。出願時に値上げしている場合は320円分の切手を貼ってください） |
| あて名票 (合格・入学手続通知用) | 本研究科所定の用紙 合格通知及び入学手続書類の送付に使用するので、出願後受信場所が変更となった場合は、速やかに連絡してください。 |
| 入学願書受付票 (あて名票と同一用紙) | 本研究科所定の用紙 必要事項を正しく記入してください。 |

| | |
|----------------------------|---|
| 住民票 | 本邦在留の外国人は、市区町村長発行の住民票（本人に係るすべての事項を証明したもの）を提出してください（コピー不可）。海外住居者は、住民票の代わりにパスポートのコピー（姓名、国籍及び在留資格が記載されたページ）を提出してください。なお、在留資格が「留学」以外の者は、在留資格に係る承諾書（本学所定の用紙）を提出してください。 |
| 該当者 研究業績調書 （その1、その2） | 本研究科所定の用紙に、職務内容、著書、学術論文、学術講演、学術報告、特許及び実用新案等社会における研究活動状況を示すものを記入してください。所定の用紙に準じて作成したり、別用紙に印刷したものを貼付しても構いません。 なお、 関連した論文の別刷又は写しを添付してください。 |

注1：出願資格の（2）に該当する者のうち、志願者の国籍の教育制度が日本の教育制度と異なることにより、「大学院成績証明書」及び「学部成績証明書」が提出できない場合は、その代わりに出身大学（修士の学位に相当する学位を授与した大学）の「成績証明書」を提出してください。

2：出願資格の（6）（7）又は（8）に該当する者は、出願資格審査で既に「修了証明書」、「学部成績証明書」「大学院成績証明書」及び「修士学位論文要旨」（（6）の場合、「博士論文研究基礎力審査」に相当するもの）が提出されているので改めて提出する必要はありません。

（3）出願に当たっての留意事項

- ① **出願者は、出願前に、あらかじめ希望する指導教員の下承を得る必要があります。**
- ② 出願書類は黒のボールペン書き（消せるボールペンは使用不可）とし、かい書で正確に記入してください。
- ③ 提出する書類のうち証明印、サインのあるものは、コピーでの提出は認めません。
- ④ 受理した出願書類等は、どのような理由があっても返還しません。
- ⑤ 納入済の検定料は、次の場合を除き、どのような理由があっても返還しません。
 - 1）検定料を振込んだが、本研究科に出願しなかった場合
 - 2）検定料を誤って重複して振込んだ場合
 なお、返還方法については本学入試課に問い合わせてください。
- ⑥ 出願書類等に偽造、虚偽記載、剽窃等、その他試験の公平性を損なう恐れのある場合は、不正行為となり、出願を認められないことがあります。また、出願受理後でも出願の取り消しや、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。なお、その場合、検定料及び入学料は返還しません。
- ⑦ **日本語又は英語以外で書かれた書類については、日本語の訳文を添付してください。**
(Please attach Japanese translation to documents that are written in languages other than Japanese or English.)

3. 選抜方法等

（1）選抜方法

各分野で実施する、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。

（2）口述試験の内容

口述試験は、修士論文、研究計画書等の内容及び外国語（英語、日本語のうちから母語を除く1か国語）について行います。

（3）選抜期日等

① 日時

| | |
|--------------------------------------|-------------------|
| 令和6年度10月入学 入学試験 令和7年度4月入学 第1次入学試験 | 令和7年度4月入学 第2次入学試験 |
| 令和6年8月23日(金) | 令和7年2月14日(金) |

② 試験場 福井大学工学部 福井市文京3-9-1

試験室案内及び試験日時の詳細は、受験票送付時に同封するとともに、当日は、本学総合

研究棟Ⅲ－1（工学系1号館1号棟）玄関前に掲示を行います。

（4）受験上の留意事項

- ① 受験者は、**必ず受験票を携帯し、試験開始15分前までに各試験室等へ集合**してください。
- ② 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始後30分以内に限り受験を認めます。
- ③ 本研究科が課す選抜試験を一部でも受験しなかった場合には、失格となります。

VI. 工学研究科博士後期課程案内

1. 目的

近年のわが国の産業界で進展している技術革新を支えている工学は、それぞれの分野の分化、深化とともに、互いに他の分野と影響しあって発展してきた。一方では、多様な科学技術が社会のあらゆるシステムや人間の生活の中にも取り込まれつつある。更に、科学技術が自然環境や人間社会にもたらした大きな変貌への対応も迫られている。

このような状況に応じて、本学大学院工学研究科博士後期課程は自己の専門分野やその関連分野における優れた研究能力を備えているばかりでなく、社会の広い分野で活躍し得る広い視野と柔軟性を持つ高度な技術者・研究者を養成するため設置された。博士前期課程（修士課程）修了者の進学者の受入れとともに、社会人を再教育のため現職のまま受入れることも重要な目的の一つとしている。

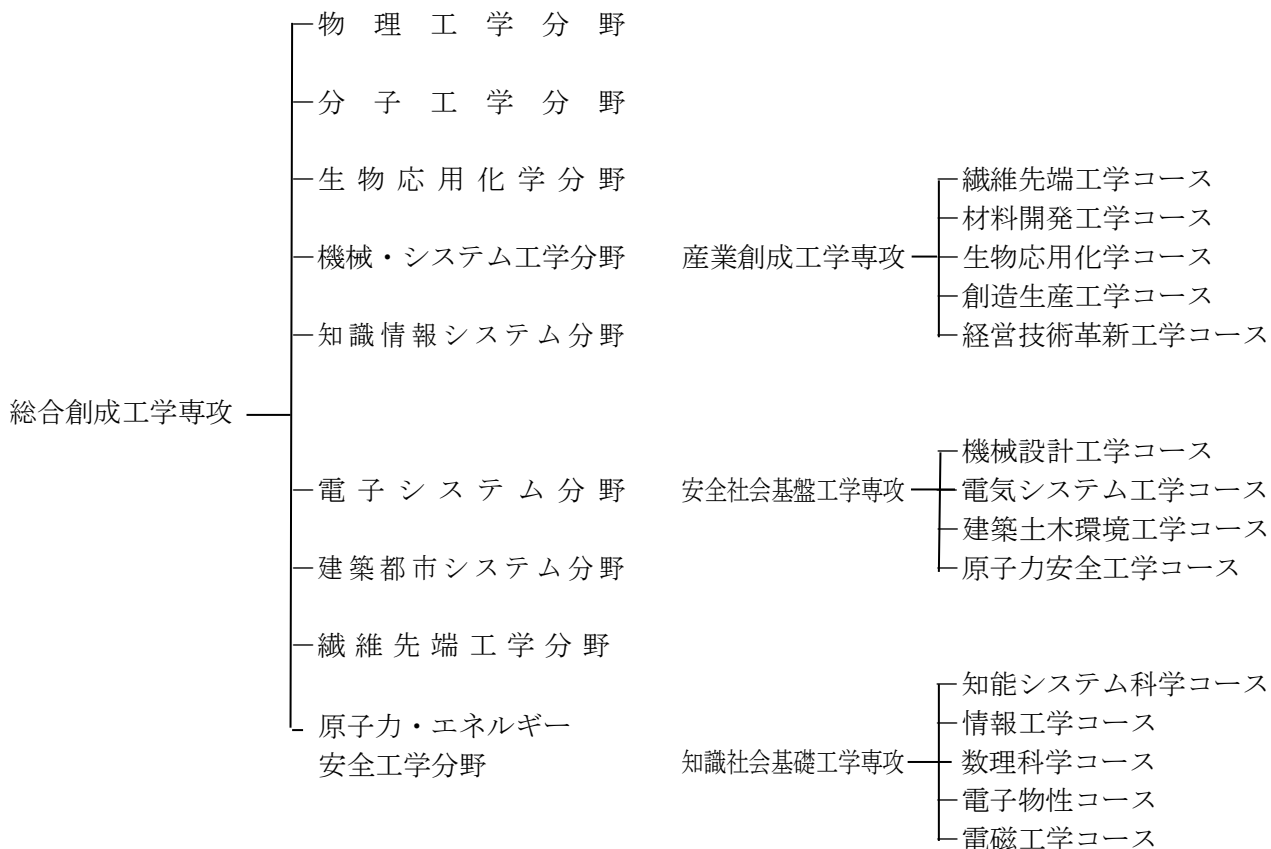
2. 構成

本研究科の博士前期課程は、工学部 5 学科の上に積み上げる方式とし、学部教育との関連性を持たせるとともに、多様な経歴の進学者にも対応出来るよう大学院としての系統的カリキュラムを組んでいる。また、博士後期課程は新しい工学の視点より、総合化と弾力化を考慮しながら博士前期課程の専攻の枠を外して 1 専攻に統合されている。これにより、専攻間の壁が無くなり、学術的研究や流動的で柔軟性に富んだ研究が可能になる。

工 学 研 究 科

博 士 後 期 課 程

博 士 前 期 課 程



3. 総合創成工学専攻の概要

専門分野における深い知識とともに、広い知識と見識に支えられた能力を発揮し、現場におけるさまざまな問題・課題をあるいは解決に向けて積極的に取り組むことのできる能力を育成する。

それぞれの専門分野あるいはその関連分野で活躍すると同時に、新しい分野を開拓し、自ら積極的に新技術の研究・開発に取り組むことのできる能力を育成する。

高度専門技術者・研究者として守るべき倫理や負うべき社会的責任並びに起業の可能性を追究する意欲や国際的な環境での事業の開拓などに取り組む積極性を涵養する。

4. 各分野の内容及び指導教員

| 分野 | 内 容 | 指 導 教 員 |
|----------|--|---|
| 物理工学分野 | <p>工学において、物理的手法は不可欠なものであり、様々な物質系が示す物理現象はエレクトロニクスをはじめ現代工学の基礎となっている。</p> <p>本分野では、数理物理、量子物理、電磁物理、凝縮系物理の各分野において、物質を構成する分子、原子、原子核、素粒子とその集合系における物理的諸性質の研究を通じ、工学における数理的、物理的手法の開発と、新しい材料や革新的な技術への応用に関する教育と研究を行う。</p> | <p>浅野 貴行 小川 泉 熊倉 光孝 古閑 義之 佐藤 勇二 田嶋 直樹 立松 芳典 谷 正彦 藤井 裕 光藤 誠太郎 加藤 康之 松本 拓也 守安 毅 Escano Mary Clare Sison 山口 裕資</p> |
| 分子工学分野 | <p>本分野では、将来性のある材料の合成と開発を目指している。</p> <p>本分野では、無機ファイン材料の分子設計とその電磁気的性質、有機化合物の分子設計と合成、高分子材料の合成と機能の発現、機構の解明、高分子の化学工学的解析、化学物質の環境安全性や汚染防止等に関する教育と研究を行う。</p> | <p>内村 智博 金 在虎 古石 貴裕 阪口 壽一 佐々木 隆 玉井 良則 徳永 雄次 橋本 保 吉見 泰治 米沢 晋 石松 亮一 岡田 敬志 庄司 英一 田中 穰 西海 豊彦</p> |
| 生物応用化学分野 | <p>近年のライフサイエンスの急速な進歩は、生物機能の分子レベルでの解明を可能にし、その応用は 21 世紀において大きく発展している。</p> <p>本分野では、生物機能を物理的・化学的立場より捉え、生体関連機能性高分子の合成と応用、生体物質の構造と機能解明に必要な化学分光機器の開発と利用、生体膜の能動輸送性、電子移送機構などの解析とその人工的構築、生物機能の分析化学的検討、酵素、核酸などの生体高分子及びオルガネラ、分子複合体等の生体触媒システムの構造や生化学反応プロセス解析とその工業的応用など生物機能の解明と利用や模倣に関する教育と研究を行う。</p> | <p>沖 昌也 小西 慶幸 櫻井 明彦 里村 武範 杉原 伸治 前田 寧 寺田 聡</p> |

| 分野 | 内 容 | 指 導 教 員 |
|-------------|---|---|
| 機械・システム工学分野 | <p>安全で安心な社会および人と環境が調和した社会を創造する革新的なものづくりのためには、多様な分野の幅広い知識と柔軟な思考力が必要となる。</p> <p>本分野では、総合工学としての機械工学とロボティクスに関する最先端の技術と知識を学ぶ。熱、流体、構造の複雑な現象を解明するための数値解析法、計測法、画像処理法、エネルギーの貯蔵・変換、さらに制御システムの最適設計とインテリジェント化の研究を行う。また、材料の静的・動的挙動の解明、材料の強度と破壊の評価、新材料の創製、機能性製品の最適設計法、さらにこれらを高精度で効率よく創製するための生産加工手法の研究を行う。</p> <p>これらを通して社会的要請に対処した高度の知識を有する技術者・研究者を育成する。</p> | <p>伊藤 慎吾 大津 雅亮 岡田 将人 高橋 泰岳 田中 太 党 超鋺 永井 二郎 浪花 智英 藤垣 元治 本田 知己</p> |
| 知識情報システム分野 | <p>情報の種類・形態の多様化とともに、情報システムのアーキテクチャや処理法は複雑・高度なものに発展している。</p> <p>本分野ではこの発展形態である知識情報システムの構築法と、アーキテクチャ、アルゴリズム、応用に関する教育と研究を行う。その内容は次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新たな情報処理を可能にする高性能計算機ハードウェアの素子とアーキテクチャ及び設計法 2) 高効率、高信頼処理を実現する各種システムソフトウェアのアーキテクチャとアルゴリズム及び設計法 3) 数学ソフトウェアや自然言語処理など高度な応用アルゴリズム 4) 知識工学の基本原則と自然言語理解を含む高度ヒューマン・インタフェースへの応用 5) 音声情報の分析と認識 6) 生体の認識・学習機構 7) 人間情報システム 8) 計算の複雑さの理論と分析 | <p>小越 康宏 小高 知宏 黒岩 丈介 高田 宗樹 竹本 拓治 橘 拓至 東海 彰吾 樋口 健 森 眞一郎 山上 智幸 山田 徳史 吉田 俊之 長宗 高樹 長谷川 達人 森 幹男</p> |
| 電子システム分野 | <p>次世代情報化社会の実現のためには、高機能光・電子デバイス、パワー・制御システム、画像システム、通信システム並びに生体システムなどを有機的、かつ統一的に解析、設計、運用するための技術の確立が強く望まれている。</p> <p>本分野では、電子と光の相互作用を応用した高機能な光デバイスの開発設計、新材料や新原理に基づく電子デバイスの開発設計、高効率エネルギー変換デバイスの開発設計、電力系統やパワーエレクトロニクス系の高性能制御と故障診断法の確立、画像情報の認識・理解・表示並びにそれらを表現する専用装置の開発研究、マルチメディア高度通信システムのための情報通信技術、情報セキュリティ、及び生体工学、医療工学などに関する教育と研究を行う。</p> | <p>伊藤 雅一 岩田 賢一 王 栄龍 小原 敦美 塩島 謙次 廣瀬 勝一 藤元 美俊 山本 晃司 Asubar Joel Tacla 木村 欣司 牧野 哲征</p> |

| 分野 | 内 容 | 指 導 教 員 |
|-----------------|---|--|
| 建築都市システム分野 | <p>豊かな生活環境は、科学技術によって安全で機能的であると同時に、自然環境の中に融合された文化的環境でなければならない。</p> <p>本分野では、建築から都市、さらに広い地域にわたる環境を自然科学的、人文社会科学的、歴史的方法によって解明し、設計方法によって総合するためのシステムを究明する。すなわち構造機能、住基盤防災、快適性工学、環境形成、地域生活空間計画などの幅広い分野を統合的に教育研究する。</p> | <p>明石 行生 磯 雅人 川本 義海 小嶋 啓介 野嶋 慎二 原田 陽子 井上 圭一 菊地 吉信 鈴木 啓悟 藤本 明宏 桃井 良尚</p> |
| 繊維先端工学分野 | <p>従来、繊維は衣料用目的が主体を占めてきた。しかし、現在、日本で生産される繊維の70%以上が非衣料用途に用いられている。高強度で、高い柔軟性を有し、それらの性質を生かし、建築・土木用、メディカル用、IT・通信用、自動車・飛行機・船舶などの主要材料用、宇宙や海洋開発用材料などとして、ありとあらゆる分野に繊維が欠かせない材料として利用されだした。新しい繊維・高分子素材の開発から、既存の繊維に新たな機能を賦与する加工技術の開発、石油や石炭などの化石原料に頼らない繊維材料の開発など学問的に展開すべきことは非常に多く、また今後も日本が技術立国として生き延びて行くためには、繊維に係わる産業は欠かせない分野である。</p> <p>本分野はこの領域に関する教育・研究を担当する。</p> | <p>田上 秀一 中根 幸治 久田 研次 廣垣 和正 藤田 聡 植松 英之 坂元 博昭</p> |
| 原子力・エネルギー安全工学分野 | <p>原子力・エネルギー安全工学分野は、日本のエネルギー事情と原子力エネルギーの役割の重要性、原子力の環境および社会における受容性、原子力技術者の不足という現実を鑑み、「安全と共生」をキーワードとして、原子力とエネルギーにおける諸課題に関する研究を進展させ、同時に、この分野で活躍できる高い倫理観を持つ高度専門技術者を育成する。特に、多くの原子力発電所が立地する福井県に位置する本学の立場を生かして、より実践的な研究・教育を行う。</p> | <p>桑水流 理 石垣 将宏 松尾 陽一郎 有田 裕二 泉 佳伸 福元 謙一 安田 仲宏</p> |

注：指導教員は予定であり、今後変更の可能性もあります。

(5) Global Engineering Program for Research and Development (GEP for R&D)

「国際技術研究者育成コースカリキュラム」

本入試に合格した者は、通常の博士後期課程カリキュラムで学ぶことも、講義・演習・研究発表等を英語で行う GEP for R&D のカリキュラムで学ぶこともできます。(どちらか一方を選択します。なお、GEP for R&D のカリキュラムには、別途 GEP for R&D 専用の選抜で入学した外国人留学生が参加します。)

GEP for R&D カリキュラムの履修を希望する者は、合格後に指導希望教員に申し出てください。(指導希望教員の推薦と所属分野の承認が必要となります。)

Curriculum is subject to change.

カリキュラムについては変更になる場合があります。

| Category 科目区分 | Course Title 授業科目 |
|--|---|
| Open Education Courses (オープンエデュケーション科目) | Introduction to Graduate Studies I (専門特別講義 I) |
| | Introduction to Graduate Studies II (専門特別講義 II) |
| | Introduction to Graduate Studies III (専門特別講義 III) |
| Practical Training/ International Experience Courses (実践科目) | Long-term Internship (長期インターンシップ) |
| | Advanced Course of Intellectual Property and Patent (知的財産-特許コース特論) |
| | Business Strategy (企業戦略概論) |
| | Global Strategy and Open Innovation (国際化戦略とオープンイノベーション) |
| | Roadmap of Research and Development (技術開発のロードマップ) |
| | On the Tutorial Training (OTT) |
| | Seminar for Global Marketing Research (グローバル市場探索演習) |
| | Project Incubation Program (プロジェクトインキュベーション経験プログラム) |
| | On the Consulting Training (OCT) |
| | Overseas Lectures and Exercises I (海外特別講義・演習 I) |
| | Overseas Lectures and Exercises II (海外特別講義・演習 II) |
| | Overseas Presentations and Discussions I (海外研究プレゼンテーション・討論 I) |
| | Overseas Presentations and Discussions II (海外研究プレゼンテーション・討論 II) |
| | Overseas Culture, Custom, and Communication I (海外文化・生活・コミュニケーション I) |
| | Overseas Culture, Custom, and Communication II (海外文化・生活・コミュニケーション II) |
| | Special Lecture on International Technology and Management (海外技術経営論) |
| | Overseas Business Internship (海外企業インターンシップ) |
| | Creative System Design (創造システムデザイン) |
| | Project Based Learning (PBL) |
| | Graduate School Short-term Internship Abroad A (大学院海外短期インターンシップ A) |
| Graduate School Short-term Internship Abroad B (大学院海外短期インターンシップ B) | |
| Debate Courses (討論形式科目) | Critical Eye for Technologies I (専門技術と社会 I) |
| | Critical Eye for Technologies II (専門技術と社会 II) |
| | Critical Eye for Technologies III (専門技術と社会 III) |
| Advanced Courses (専門科目) | ※ As indicated in the Attached List ※別表のとおり |
| Research Seminar (研究ゼミナール) | Research Seminar in Major Field I (主専門研究ゼミナール I) |
| | Research Seminar in Major Field II (主専門研究ゼミナール II) |
| | Research Seminar in Sub-Major Field (副専門研究ゼミナール) |


※ Attached List 別表

| Category 科目区分 | Course Title | 授業科目 |
|----------------------------|--|------------------------|
| Advanced Courses (専門科目) | Advanced Mathematical Physics | (数理物理学特論) |
| | Advanced Quantum Physics | (量子物理学特論) |
| | Advanced Electromagnetic Physics | (電磁物理学特論) |
| | Advanced Condensed Matter Physics | (凝縮系物理学特論) |
| | Advanced Applied Physics | (物理工学特論) |
| | Advanced Course of Inorganic Materials | (無機ファイン材料特論) |
| | Organic Molecular Materials | (有機分子設計特論) |
| | Polymer Synthesis | (機能性高分子工学特論) |
| | Polymer Engineering | (高分子材料設計特論) |
| | Fundamentals of Molecular Engineering | (分子工学基礎論) |
| | Advanced Polymer Science | (高分子科学特論) |
| | Advanced Applied Biotechnology | (応用生命工学特論) |
| | Advanced Biological and Analytical Environmental Chemistry | (生命・環境解析化学特論) |
| | Advanced Molecular and Cellular Biology | (細胞分子生物学特論) |
| | Advanced Microbial Resource | (微生物資源特論) |
| | Advanced Machine Dynamics | (機械ダイナミクス特論) |
| | Advanced Thermal and Fluid Engineering | (熱流体工学特論) |
| | Advanced System Control | (システム制御特論) |
| | Advanced Robot Control | (ロボット制御特論) |
| | Design and Manufacturing Engineering | (機能創成工学特論) |
| | Computers and Software I | (計算機構成・ソフトウェア科学工学特論Ⅰ) |
| | Computers and Software II | (計算機構成・ソフトウェア科学工学特論Ⅱ) |
| | Cognition and Human Interface I | (認知情報・ヒューマンインタフェース特論Ⅰ) |
| | Cognition and Human Interface II | (認知情報・ヒューマンインタフェース特論Ⅱ) |
| | Electronic Systems Engineering, Adv. I | (電子システム工学特論Ⅰ) |
| | Electronic Systems Engineering, Adv. II | (電子システム工学特論Ⅱ) |
| | Electronic Systems Engineering, Adv. III | (電子システム工学特論Ⅲ) |
| | Electronic Systems Engineering, Adv. IV | (電子システム工学特論Ⅳ) |
| | Building Structural System Design | (建築構造システム特論) |
| | Life Infrastructure and Disaster Prevention | (住基盤防災特論) |
| | Architectural and Urban Comfort Engineering | (建築都市快適論) |
| | Architecture and Civil Engineering | (建築都市システム特論) |
| | Fiber Structure and Function, Advance | (繊維機能科学特論) |
| | Advanced Fiber and Polymer Materials Science | (繊維・高分子材料科学特論) |
| | Textile・Engineering and Polymer Processing, Adv. | (テキスタイル・高分子成形加工工学特論) |
| | Biomimetic Engineering, Adv. | (バイオミメティック工学特論) |
| | Advanced Energy Safety and Symbiosis Engineering I | (エネルギー安全工学特論Ⅰ) |
| | Advanced Energy Safety and Symbiosis Engineering II | (エネルギー安全工学特論Ⅱ) |
| | Advanced Nuclear Engineering I | (原子力工学特論Ⅰ) |
| | Advanced Nuclear Engineering II | (原子力工学特論Ⅱ) |

Ⅶ. 学生募集要項等の請求方法

1. テレメールによる請求方法


(1) 福井大学ホームページ（パソコン）からの請求方法

本学ホームページ (<https://www.u-fukui.ac.jp/>) 「受験生の方へ」内の「入試資料の請求」から  テレメールにアクセスしてください

※本学ホームページ内の「受験生の方へ」では大学の概要や入試情報等も紹介しています。

(2) テレメールによる請求方法


①  テレメールにアクセスしてください。

| | | |
|-------------------------------|---|---|
| インターネット (パソコン・ スマートフォン) | https://telemail.jp |  上記コードを読み取るだけでアクセスできます。 |
|-------------------------------|---|---|

②請求を希望する資料請求番号（6桁）を入力してください。

| 資 料 名 | 資料請求番号 |
|-------------------|--------|
| 工学研究科（博士後期課程）募集要項 | 543422 |
| 工学研究科案内（博士後期課程） | 549592 |

③ガイダンスに従って申し込んでください。

- ・ 発送日のおおむね3～5日後に資料が届きます。
受付時間や地域、配達事情によっては、到着までに1週間ほどかかる場合もあります。
- ・ 送料は資料に同封されている支払方法に従い、表示料金を支払ってください。
(支払いに際して手数料が別途必要になります。)
- ・  テレメールでの請求についての問い合わせ先
テレメールカスタマーセンター TEL 050-8601-0102 (9:30～18:00)

2. 大学への請求方法（できるだけ テレメールで請求してください。）

「博士後期課程学生募集要項請求」と明記し、送付先(請求者)の郵便番号、住所、氏名、電話番号を書いて、学務部入試課へメールまたはFAXにより申し込んでください。

ゆうメールの着払いで送付します。

E-mail : g-nyusi@ad.u-fukui.ac.jp

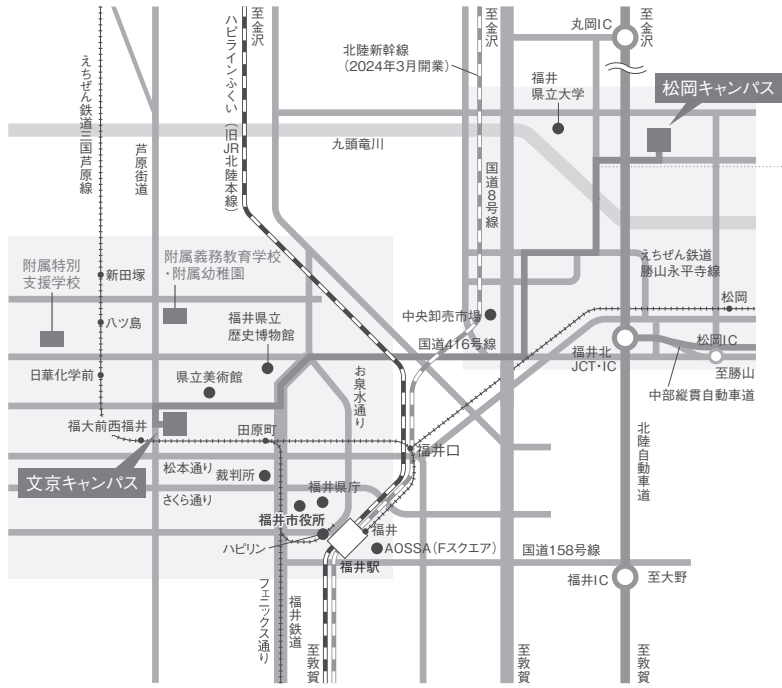
FAX : 0776-27-8010

3. 窓口での請求方法

本学窓口で配付します。(祝日を除く月～金曜日の9:00～17:00)

文京キャンパス：福井市文京3-9-1 福井大学学務部入試課

福井大学位置図



両キャンパスを結ぶ連絡バスで移動できます。(約30分)



■敦賀キャンパス【附属国際原子力工学研究所】への経路

- 鉄 道 敦賀駅から徒歩で約3分
- 北陸自動車道 敦賀ICから敦賀バイパス国道8号線で約1km、国道476号線で西へ約1km、敦賀街道・国道8号線で南へ約3km

■文京キャンパス【教育学部・工学部・国際地域学部】への経路

- バ ス 福井駅ー(約10分)ー福井大学前下車
[福井駅西口から出て市内バス乗り場2番から]
- 鉄 道 えちぜん鉄道福井駅ー福大前西福井駅下車
[福井駅東口から出て三国芦原線で約10分]
*西口前の福井鉄道(路面電車)ではありません。
- タクシー 福井駅ー(約10分)ー福井大学文京下車
[必ず「福井大学文京キャンパス」と伝えてください]
- 北陸自動車道 福井北JCT・ICから国道416号線で西へ約7km
福井ICから国道158号線で西へ約8km

■松岡キャンパス【医学部】への経路

- バ ス 福井駅ー(約35分)ー福井大学病院前下車
[福井駅西口から出て市内バス乗り場1番から]
- 鉄 道 えちぜん鉄道福井駅ー松岡下車 バスに乗り換え約5分
[福井駅東口から出て勝山永平寺線で約20分+バス]
*西口前の福井鉄道(路面電車)ではありません。
- タクシー 福井駅ー(約30分)ー福井大学松岡下車
[必ず「福井大学松岡キャンパス」と伝えてください]
- 北陸自動車道 福井北JCT・ICから北へ約4km、又は丸岡ICから南へ約5km
*標識・バス停の福井大学病院は「福井大学医学部」の位置を指します。

福井へのアクセス

大阪・京都方面から

- 電車 大阪・京都ー湖西線経由ー福井
(特急・新幹線で、京都から約1時間15分、大阪から約1時間45分)
- 自動車 大阪・京都ー<名神>ー米原JCTー<北陸>ー福井・福井北JCT・IC
(京都から約2時間、大阪から約2時間30分)
- 高速バス 大阪・京都ー<名神・北陸>ー福井
(京都から約2時間30分、大阪から約3時間30分)

名古屋・静岡方面から

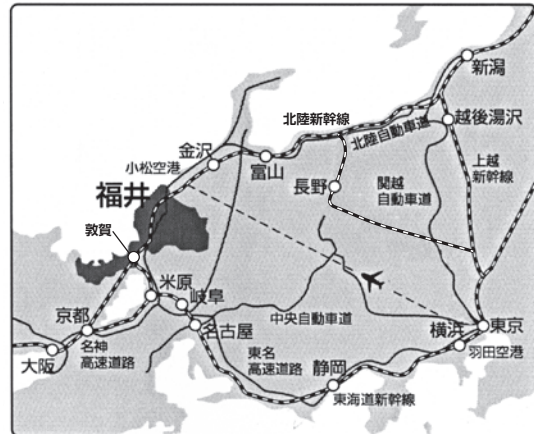
- 電車 名古屋・静岡ー米原経由ー福井
(名古屋から新幹線・特急で約1時間30分)
- 自動車 名古屋ー<名神>ー米原JCTー<北陸>ー福井・福井北JCT・IC
(約2時間)
- 高速バス 名古屋ー<名神・北陸>ー福井(約2時間50分)

東京方面から

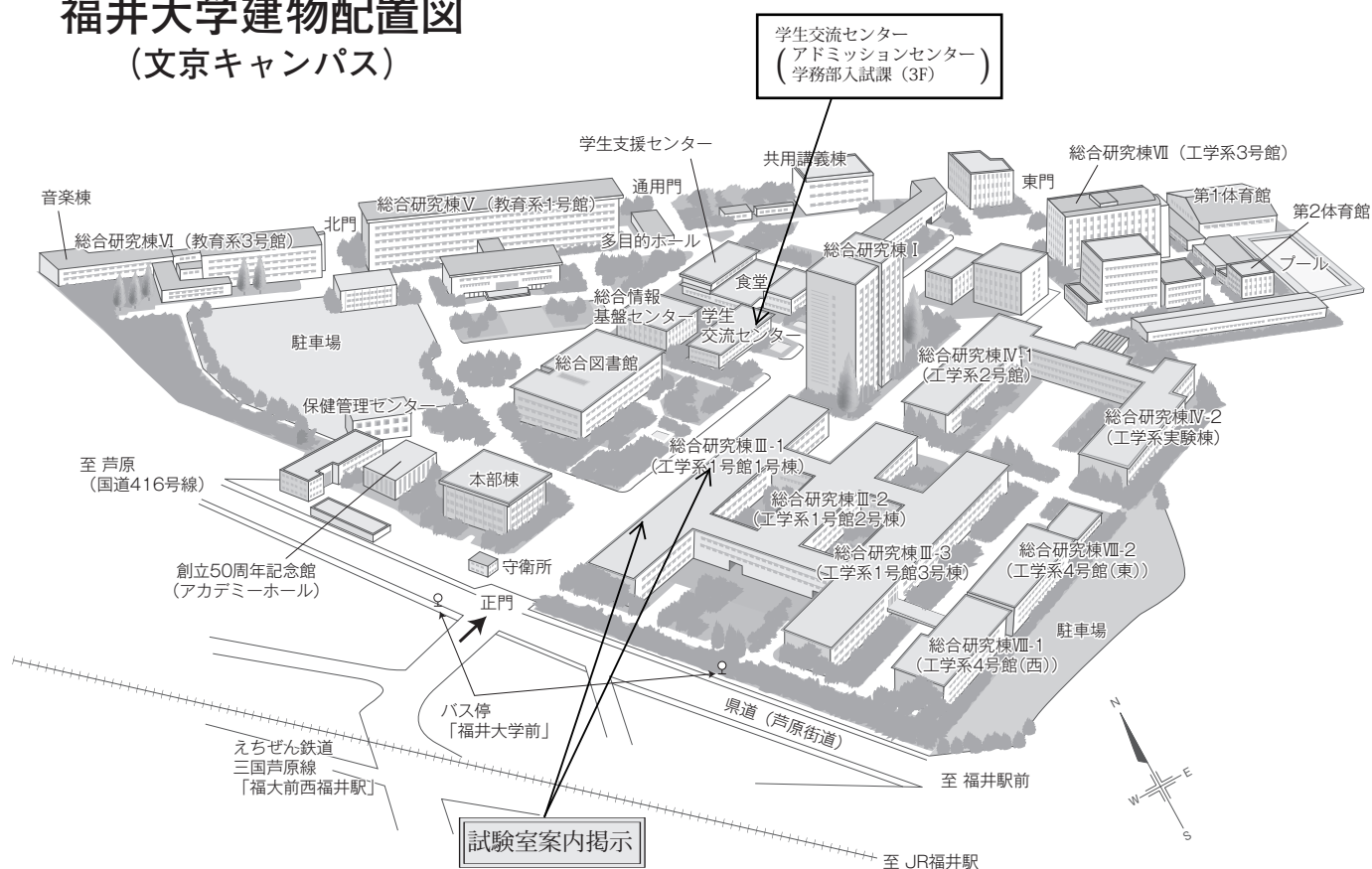
- 飛行機 東京羽田ー小松空港(1時間)ー福井(連絡バス1時間)
- 電車 東京ー金沢経由ー福井(新幹線約2時間50分)(直通)
東京ー米原経由ー福井(新幹線・特急約3時間30分)
- 自動車 東京ー<東名・名神>ー米原JCTー<北陸>ー福井・福井北JCT・IC
*高速バスもあります。(約6時間30分)

金沢・新潟方面から

- 電車 金沢・新潟ー福井(金沢から新幹線で約20分)
- 自動車 金沢ー<北陸>ー丸岡ー福井北JCT・IC(約1時間)



福井大学建物配置図 (文京キャンパス)



《受験に関する問い合わせ先》

福井大学学務部入試課

〒910-8507 福井市文京3-9-1

TEL 0776-27-9927

MAIL g-nyusi@ad.u-fukui.ac.jp

<注意>

- ・本入試に関するすべての事項は、志願者本人がこの学生募集要項を熟読することによって、必ず本人の責任で確認してください。
- ・受験者に不利益を与えない範囲での変更を行う場合があります。その場合は、本学ホームページの「受験生の方へ」内でお知らせします。
〔福井大学ホームページ <https://www.u-fukui.ac.jp/>〕
- ・電話での照会は、祝日及び年末年始を除く、月～金曜日の9:00～17:00に、この学生募集要項を参照の上、必ず志願者本人が行ってください。